

大阪・奈良・京都にまたがる山間部で、北海道大学の研究グループが野犬の生態調査を続けている。調査に同行して、すっかり野性化し、群れで行動する野犬の様子をカメラで追った。

「野犬放牧事故」は、この辺から三しか離れていない。八年前の事故発生当時と、ほとんど変わらぬ状態が野放しになっているのを池田さんたちは確認した。大阪府環境保健部と奈良

野犬調査 同行ルポ

不法投棄された大型のゴミが、県道沿いに点々と連なる。その一つから「グーン、クーン」とか細い声が聞こえてきた。生後三カ月ほどの子犬が捨てられてい

た。みぞれ交じりの冷たい雨にぬれ震えていた。こんな子犬を二週間で五匹も見つけた。

研究グループは野犬を捕獲して首に発信器を取り付け、追跡調査をする。一時間にどこに居場所を地図上に

事故後8年改善なく

調査を始めるきっかけとなった、四歳(当時)の女の子が野犬にかみ殺された

と頭を抱えている。多く捕獲が間に合わない



命たくましく

山中で繁殖する犬も多い。松の根元の穴で二匹の子犬が生まれていた

二枚方市穂合で

にゆうす・らうんじ



人なつこく

放し飼いの犬の苦情は調査地域外でも多い。「放さないよう指導してもなかなか聞き入れられない」と大阪府はいう

＝摂津市安威川南町で



完全に野

山で生まれ育った野犬の警戒心が強く、人の接近を嫌う。右の犬は首に発信器をつけている

＝奈良県生駒市